レガシープログラム

くまもとハロープログラム

平成 28 年 11 月 2 日

熊本国際スポーツ大会推進事務局

「くまもとハロープログラム（※）」
　　2019～2020 年に開催される“Handball・Rugby・OlympicParalympic”の頭文字を取り、
「くまもとハロー（HaRO）プログラム」と命名

レガシープログラム 「くまもとハロープログラム」

～２０１９－２０２０年の国際スポーツ大会開催やキャンプ地誘致を通じて、
熊本の次世代に有益なレガシー（遺産）を残していこう！～

Ⅰ　趣旨

2019 年に熊本で開催される「女子ハンドボール世界選手権大会」及び「ラグビーワールドカップ」、並びに 2020 年の「東京オリンピック・パラリンピック」に向けた県内へのキャンプ地誘致活動から得られる様々な成果を、レガシーとして大会が終了した後も継続させ、熊本地震からの復興に繋げるため、県内の行政・企業・団体そして住民による各種取組みの方向性をとりまとめます。

Ⅱ　取組みの４つの方向性

１．震災からの復興の姿の発信
２．スポーツの普及と振興
３．インバウンド観光の推進
４．国際交流の促進

1．震災からの復興の姿の発信

熊本地震からの復興の姿や様々な支援に対する感謝の心を、国際スポーツ大会の開催を通じて世界に発信するため、2019 年の女子ハンドボール世界選手権大会、ラグビーワールドカップの成功等を震災復興のマイルストーンとして取組みを実施します。

2つの大会開催、キャンプ地誘致の成功は震災復興のマイルストーン

２．スポーツの普及と振興

これらの国際スポーツ大会の開催を機に、以下の取組みを通じ、県民へのスポーツの普及と振興を図ります。

（１）国際スポーツ大会の成功と東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致実現

①世界大会の確実な開催（選手が最高のパフォーマンスを発揮でき、観客がこのパフォーマンスを楽しみ、ファンが街中でも大会を満喫でき、世界へ感動が発信され、大会ブランドが向上する。）

②県、市町村、競技団体等が連携したキャンプ地誘致活動の実施

ノルウェーオリンピック委員会とのボート・カヌー選手団
事前キャンプ受入れに関する調印式

③トップアスリートとの交流によるスポーツ参加の動機付け

ラグビー日本代表　五郎丸選手と
阿蘇西小学校生徒との交流

ハンドボール日本代表チームと
県内小中学校生徒との交流

（２）国内・世界で活躍する熊本のトップアスリートの養成

リオ五輪　ボクシング男子ライト級
成松大介選手（熊本農業高校出身）

リオ五輪　サッカー男子
植田直通選手（大津高校出身）

熊本県内のハンドボール登録チーム数・登録選手数の推移

		1997 年	2002 年	2007 年	2012 年	2015 年
登録チーム数	小学生	10	21	25	23	19
	中学生	42	39	38	31	29
	高校生	54	53	53	54	52
	合計	106	113	116	108	100
登録選手数	小中高合計	2076	2014	2127	2283	2104

（（財）日本ハンドボール協会 Web 登録数データより抜粋）

（３）誰もが生涯、スポーツを楽しめる環境の整備

①障がい者・高齢者等のスポーツの振興

②被災したスポーツ施設の創造的復興、施設の近代化、ユニバーサルデザインに配慮した国際水準に向けた施設整備

③各種市民スポーツ大会の開催、地域型総合スポーツクラブの振興・ボランティアの育成

④健康寿命の延伸のための意識醸成

熊本城マラソンでもボランティアが大活躍

熊本県ボランティア活動人数

(単位：人)	1996 年	1997 年	1998 年	1999 年	2000 年
熊本県ボランティア活動人数	150,784	175,498	163,279	167,333	154,819

（全国社会福祉協議会　ボランティア活動年報より抜粋）

３．インバウンド観光の推進

大会観戦などのために世界中から熊本を訪れる旅行者が、熊本の素晴らしい観光資源やおもてなしに触れてファンとなり、リピーターとして再び熊本を訪れてもらえるための取り組みを推進します。

（１）リピーターの獲得及びＦＩＴ(※1)化に対応した取組み

①観光客の受入環境の整備(多言語対応・おもてなし力の向上、WiFi 整備等　ハード整備)による満足度の向上

②熊本地震からの交通インフラの回復による利便性の向上

③本県のフラッグシップ(※2)となる宿泊施設の誘致による熊本ブランドの強化

④多様化するニーズに応じた観光素材の磨き上げと九州各県と連携した周遊ルートの開発、情報の発信

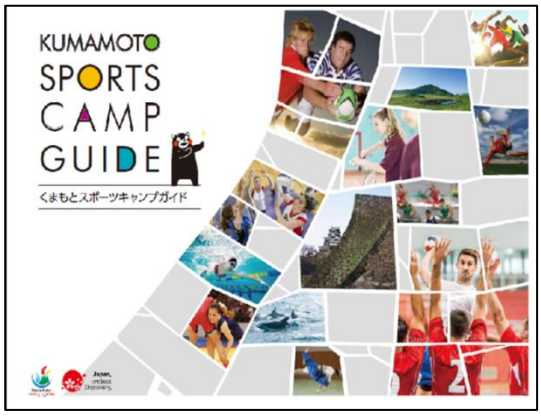
長崎県との観光周遊ルートの開発が見込まれる天草の﨑津集落

（２）スポーツツーリズムの発展と定着

①競技施設、アスリート向け宿泊施設・リラクゼーション施設等の情報の発信

②熊本の食や温泉等観光情報の発信

③国際スポーツ大会やキャンプ地誘致の専門組織（スポーツコミッション等）の設置検討



くまもとスポーツキャンプガイド

くまもとの温泉情報発信　ふろモーション
（くまモン温泉動画 『くまモンの休日』より）

※1　FIT(Foreign Independent Tour)：　団体旅行やﾊﾟｯｹｰｼﾞﾂｱｰを利用しない個人旅行者
※2　フラッグシップ：　旅行者のあこがれとなるような最上級である施設・サービス等のこと。

４．国際交流の促進

国際スポーツ大会開催を国際交流の絶好の機会と捉え、来熊する各国チームや観戦者と県民との交流を推進し、これが継続できる取組みを推進します。

（１）来熊する各国チームとの直接交流の促進

①世界の多様性への理解の深化

②キャンプ地誘致活動を通じたホストタウン活動の推進

（例：大分６、福岡５、静岡９　県内は１ヶ国<インドネシア>）

来熊選手団と地元小学生の交流

③各国チームの応援を通じた相互理解、エクスカーション等を通じた地域での交流や大会後の交流

（２）訪問者が気軽に熊本の文化と触れ合う機会の創出

①世界大会の開会式やファンゾーン等における熊本の文化の発信

②大会期間中、各国チームや観客が各地域を訪問した際、地域の文化を体験できるプログラムの実施

ラグビーワールドカップ２０１５大会ファンゾーン

熊本県産酒の試飲体験

Ⅲ　推進組織、推進方法

１．推進組織

熊本国際スポーツ大会実行委員会

２．推進方法

上記推進組織を構成する個々の行政、企業、団体、住民等が、「くまもとハロープログラム」に沿った事業、活動を自律的に推進する。